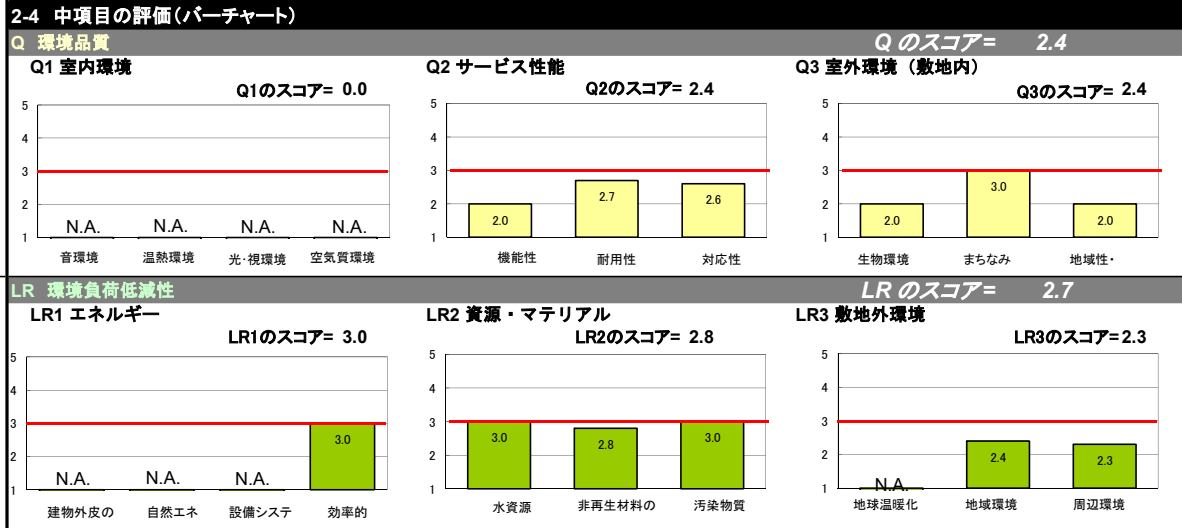
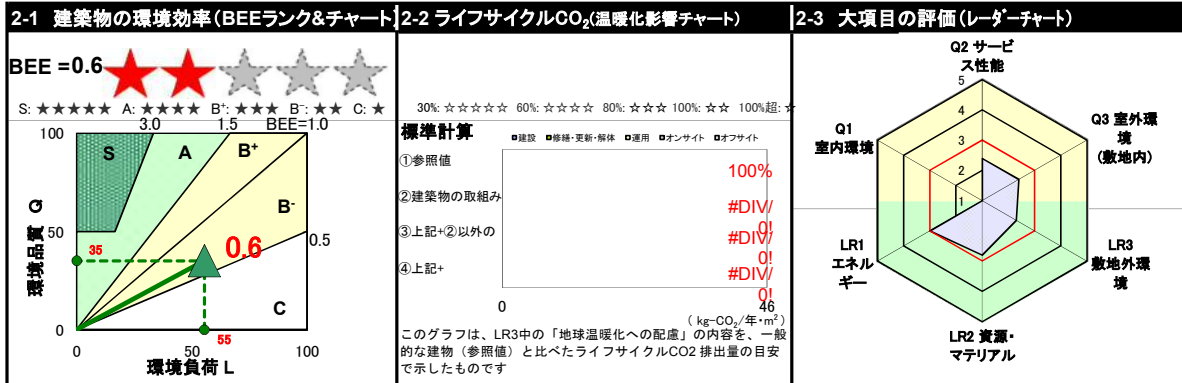


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	銀座ABプロジェクト 駐車場棟	階数	地上2F
建設地	愛知県刈谷市銀座三丁目34-1, 31-	構造	S造
用途地域	近隣商業地域 準防火地域	平均居住人員	0 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020/3/31 予定	評価の実施日	2017年8月29日
敷地面積	2,668 m <sup>2</sup>	作成者	糸数景
建築面積	1,712 m <sup>2</sup>	確認日	2017年8月29日
延床面積	3,281 m <sup>2</sup>	確認者	井手岳郎



### 3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">N.A</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="font-size: 1.5em;">37.7 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="font-size: 1.5em;">16.2 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.7</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 耐用性・信頼性、Q-2.3 対応性・更新性  
LR-2.2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3.1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄							全体
配慮項目	独自基準	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
	重点項目										建物全体・共用部
<b>Q 建築物の環境品質</b>											
<b>Q1 室内環境</b>											
<b>1 音環境</b>											
1.1 室内騒音レベル											
1.2 遮音											
1 開口部遮音性能											
2 界壁遮音性能											
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)											
4 界床遮音性能(重量衝撃源)											
1.3 吸音											
<b>2 温熱環境</b>											
2.1 室温制御											
1 室温											
2 外皮性能											
3 ソーン別制御性											
2.2 湿度制御											
2.3 空調方式											
<b>3 光・視環境</b>											
3.1 昼光利用											
1 昼光率											
2 方位別開口											
3 昼光利用設備											
3.2 グレア対策											
1 昼光制御											
3.3 照度											
3.4 照明制御											
<b>4 空気質環境</b>											
4.1 発生源対策											
1 化学汚染物質											
4.2 換気											
1 換気量											
2 自然換気性能											
3 取り入れ外気への配慮											
4.3 運用管理											
1 CO <sub>2</sub> の監視											
2 喫煙の制御											
<b>Q2 サービス性能</b>											
<b>1 機能性</b>											
1.1 機能性・使いやすさ											
1 広さ・収納性											
2 高度情報通信設備対応											
3 バリアフリー計画											
1.2 心理性・快適性											
1 広さ感・景観 (天井高)											
2 リフレッシュスペース											
3 内装計画											
1.3 維持管理											
1 維持管理に配慮した設計											
2 維持管理用機能の確保											
<b>2 耐用性・信頼性</b>											
2.1 耐震・免震・制震・制振											
1 耐震性(建物のこわれにくさ)											
2 免震・制震・制振性能											
2.2 部品・部材の耐用年数											
1 躯体材料の耐用年数											
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔											
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔											
4 空調換気ダクトの更新必要間隔											
5 空調・給排水配管の更新必要間隔											
6 主要設備機器の更新必要間隔											
2.4 信頼性											
1 空調・換気設備											
2 給排水・衛生設備											
3 電気設備											
4 機械・配管支持方法											
5 通信・情報設備											

<b>3 対応性・更新性</b>				2.6	0.29		-	2.6
3.1 空間のゆとり				1.8	0.31		-	
1 階高のゆとり				1.0	0.60		-	
2 空間の形状・自由さ				3.0	0.40		-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31		-	
3.3 設備の更新性				3.0	0.38		-	
1 空調配管の更新性		②		-	-		-	
2 給排水管の更新性				3.0	0.33		-	
3 電気配線の更新性				3.0	0.22		-	
4 通信配線の更新性				-	-		-	
5 設備機器の更新性				3.0	0.44		-	
6 バックアップスペースの確保				-	-		-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>				-	0.57		-	2.4
1 生物環境の保全と創出		独自③		2.0	0.30		-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		3.0	0.40		-	3.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>				2.0	0.30		-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		1.0	0.50		-	
3.2 敷地内温暖環境の向上				3.0	0.50		-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>								2.7
<b>LR1 エネルギー</b>					0.40		-	3.0
1 建物外皮の熱負荷抑制				2.0	-		-	-
2 自然エネルギー利用				-	-		-	-
3 設備システムの高効率化				-	-		-	-
4 効率的運用				3.0	1.00		-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00		-	-
4.1 モニタリング				-	-		-	-
4.2 運用管理体制				3.0	1.00		-	-
集合住宅の評価				-	-		-	-
4.1 モニタリング				-	-		-	-
4.2 運用管理体制				-	-		-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>					0.30		-	2.8
1 水資源保護				3.0	0.15		-	3.0
1.1 節水				-	-		-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	1.00		-	-
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67		-	-
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33		-	-
2 非再生性資源の使用量削減				2.8	0.63		-	2.8
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.07		-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25		-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		② 独自	-	3.0	0.21		-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				1.0	0.21		-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-		-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	再利用できる部品を使用している	4.0	0.25		-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.22		-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	1.00		-	-
3.2 フロン・ハロンの回避				-	-		-	-
1 消火剤				-	-		-	-
2 発泡剤(断熱材等)				-	-		-	-
3 冷媒				-	-		-	-
<b>LR3 敷地外環境</b>					0.30		-	2.3
1 地球温暖化への配慮		①		-	-		-	-
2 地域環境への配慮				2.4	0.50		-	2.4
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25		-	-
2.2 温暖環境悪化の改善				2.0	0.50		-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.6	0.25		-	-
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.33		-	-
2 汚水処理負荷抑制				-	-		-	-
3 交通負荷抑制		独自	建物利用者のため十分な駐車台数を確保した	4.0	0.33		-	-
4 廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.33		-	-
3 周辺環境への配慮				2.3	0.50		-	2.3
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				-	-		-	-
1 騒音		独自		-	-		-	-
2 振動		独自		-	-		-	-
3 悪臭				-	-		-	-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.67		-	-
1 風害の抑制				3.0	0.70		-	-
2 砂塵の抑制				-	-		-	-
3 日照障害の抑制				3.0	0.30		-	-
3.3 光害の抑制				1.0	0.33		-	-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				1.0	1.00		-	-
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				-	-		-	-

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>N. A</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	0.0	0.00	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>2.7</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	2.7	0.13	
Q2-3	対応性・更新性	2.6	0.12	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.8	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>2.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.17	外構緑化:37.7%/建物緑化:16.2%
<b>④ 地域材の活用</b>			(評価ポイント)	<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 銀座ABプロジェクト 駐車場

計画上の配慮事項	
総合	壁面緑化を行うなど、周辺環境に配慮した立体駐車場である。
Q1 室内環境	対象外
Q2 サービス性能	設備更新しやすい計画をした
Q3 室外環境(敷地内)	壁面緑化を行っている。
LR1 エネルギー	壁面緑化により表面温度を下げた
LR2 資源・マテリアル	再利用できる部材を使用している
LR3 敷地外環境	壁面緑化により景観に配慮した
その他	壁面緑化を効果的に使用した